



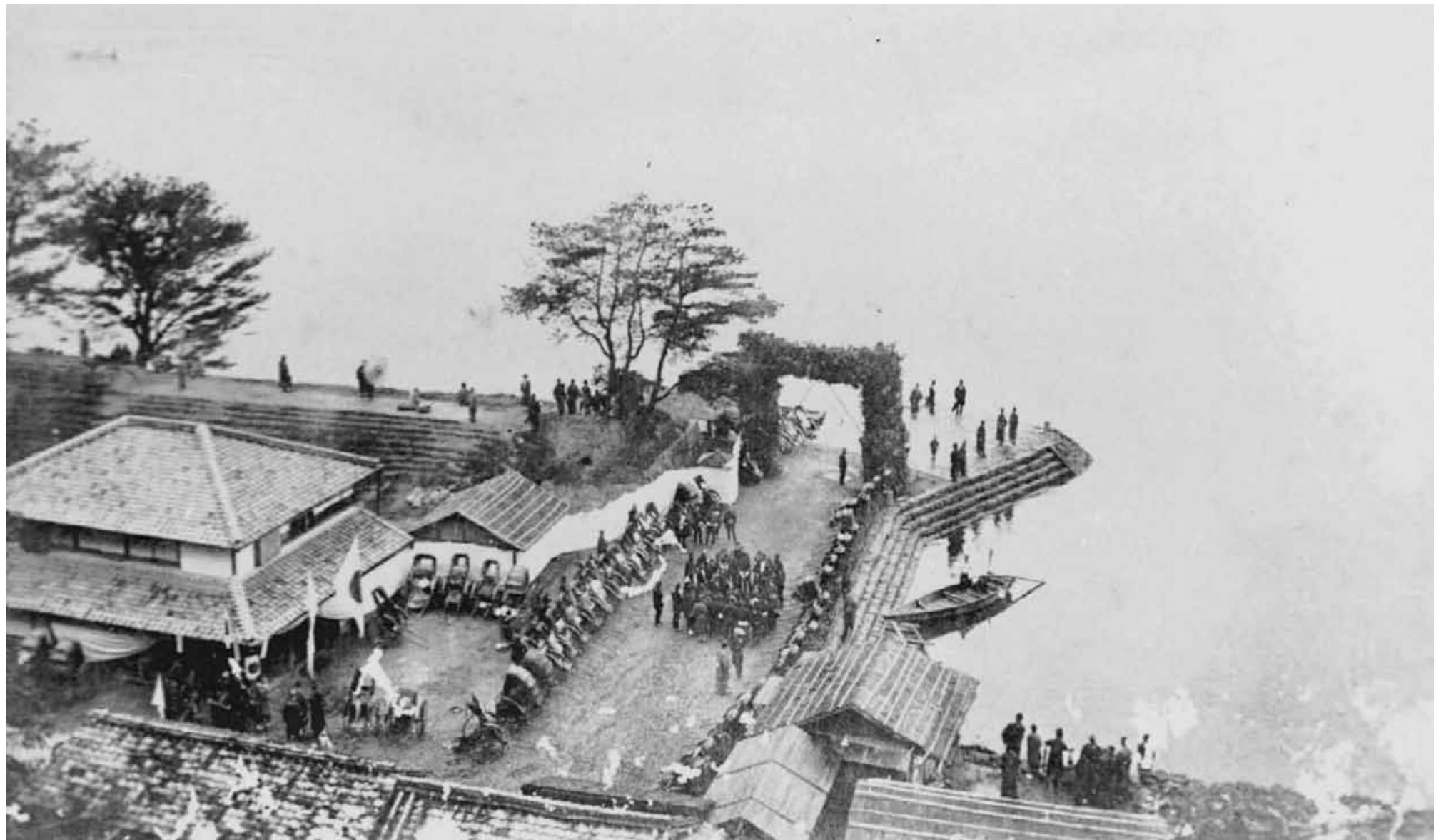
1 玉ヶ月港（たまかづきこう）【住吉町 明治30（1897）年頃】

波の静かな入江に第三愛媛丸が入港している。樺崎の付属港で、明治28（1895）年から県の警察船愛媛丸の停泊場になった。水の透き通った深い湾で、投身自殺の名所としても知られていた。



2 お上がり場桟橋【住吉町 明治32（1899）年頃】

宇和島伊達藩主が江戸から帰藩の折りに上陸した場所、ということから樺崎を「お上がり場」と言った。明治17（1884）年12月宇和島運輸会社が創立され、同社の蒸気船が大阪や大分へ通い始めたのはその翌年のことであった。



3 富姫さまのお国入り【明治39（1906）年】

北白川宮富子妃殿下は宇和島九代藩主の息女であり、明治39年宇和島にお里帰りされた。樺崎のお上がり場で、旧家臣はじめ多くの人たちがご到着を待っている模様である。住吉山から撮影した写真で、杉の葉の歓迎門の前に人力車がズラリと並んでいるのがわかる。



(注253)

### 宇和島運輸株式会社

#### 4 宇和島運輸株式会社 1 【新町 大正初期】

堅新町（現・新町）の内港に面して、とんがり帽子の時計台のある赤レンガのモダンな洋風建築が新設されたのは、大正に元号が改正する直前の明治45（1912）年7月であった。同社は、大正10（1921）年には増築され、この2倍近くの大きさの建物になった。宇和島運輸の左は共同組荷受所、右に隣接して神森回漕店が少し写っている。



(行商店畫野大)

### 伊豫宇和島上島船出場ノ景

5 横崎【住吉町 大正7（1918）年頃】

内港ができる後横崎は外港となり、大阪と大分行きの汽船が発着した。宇和島運輸株式会社の船が停泊しているが、大阪商船の船も入港し、両社は大阪への同一航路を運行した。



6 樺崎桟橋の第十五宇和島丸1【住吉町 大正9（1920）年頃】

左端に小さく見える三角屋根の建物は、乗船切符を売る宇和島運輸株式会社の事務所で、第十五宇和島丸が樺崎桟橋に横付けされている。左手前の敷地に県水産試験場が建てられる前の樺崎である。



THE PROSPEROUS INSIDE HARBOR OF UWAJIMA.

觀景の港内るす較軽の船入船出（所名島和宇）

（行發堂文昭山杉）

7 内港ノスタルジー1【新町 大正10（1921）年頃】

右から、第五十二銀行宇和島支店（現・四国銀行宇和島支店）、宇和島運輸株式会社、共同組荷受所、海産物肥料の三栄社、丸窓の洋館は改装後の第二十九国立銀行宇和島支店（現・伊予銀行宇和島支店）。宇和島運輸株式会社と共同組の間の道を少し入ると、オコワやイナリ寿司など数軒の小店が連なる「おこわ横丁」があった。



8 皇太子殿下（昭和天皇）ご来訪に沸く浜通り【新町 大正11（1922）年11月25日】

地方ご視察中の皇太子殿下（摂政宮、後の昭和天皇）が宇和島・樺崎埠頭にご上陸されたのは、市制施行の翌年の大正11年11月。人力車に召され須賀大橋を渡り、船大工町、恵美須町から袋町を通って宇和島中学へ着かれた。内港の浜通りで、羽織り、紋付、はかまの正装で殿下をお迎えする大勢の市民たち。左端のレンガの洋館が宇和島運輸の本社。右の大店は「堀部の醤油屋」であった。



9 横崎沖【住吉町 大正13（1924）年頃】

住吉山からの横崎沖の眺望。横崎桟橋の前方に三本マストの軍艦が投錨しているが、海軍の要港高知県の宿毛が近い関係で、軍艦がよく宇和島に来港したといわれる。戎山と九島に囲まれた宇和島湾は湖のようだ。

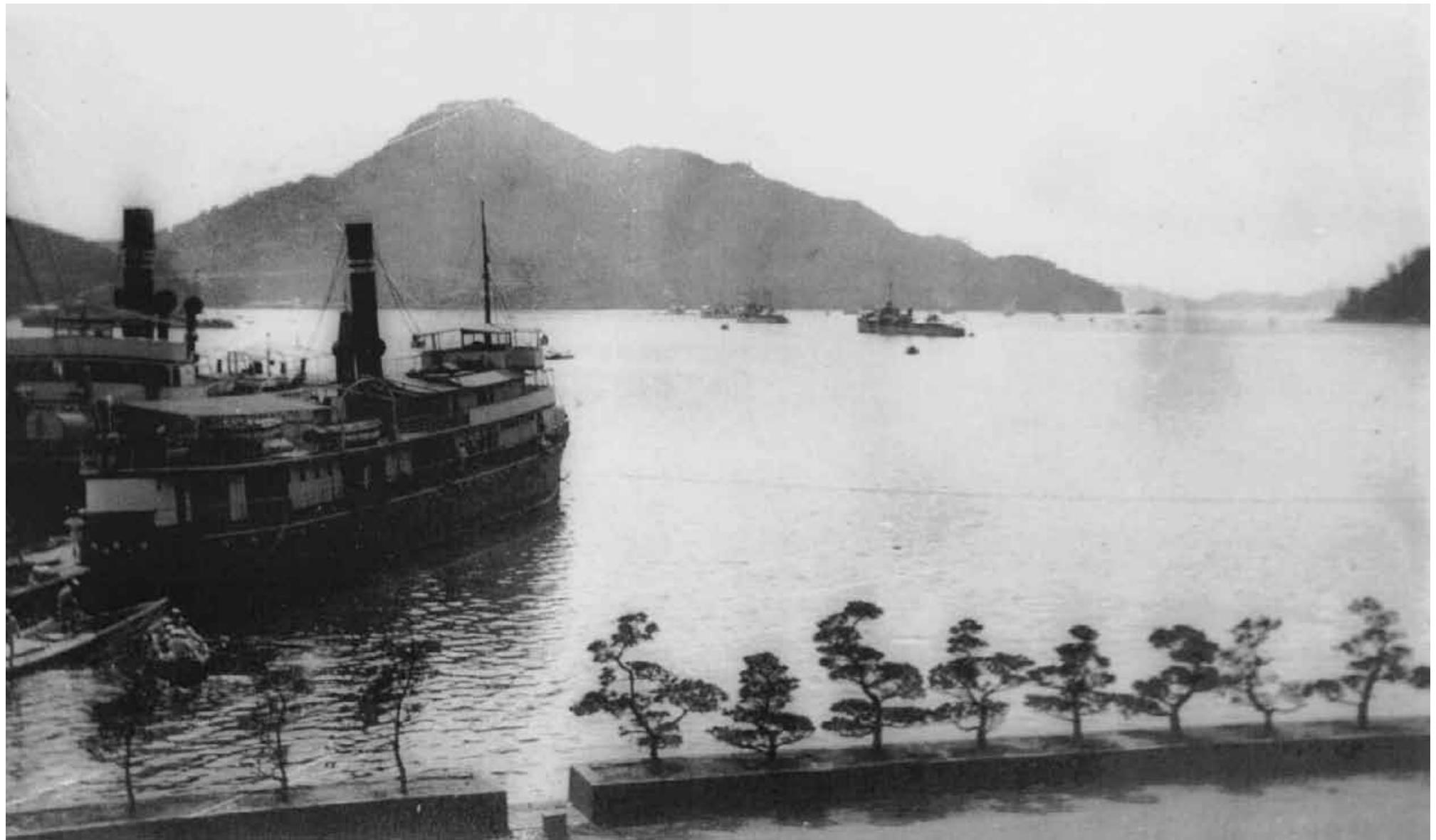


(行發堂化文中田)

盛 繁 の 港 内

10 内港ノスタルジー2【新町 大正15（1926）年頃】

中原涉町長により、宇和島城の外堀の跡を改修して丸の内劇場（現・中央町ふれあい広場）までL字型に入り込んだ内港が完成したのは、明治43（1910）年末であった。近海の漁村から発動船や貨物船が往来し、近くの袋町本通りには魚市場があって、漁船も出入りして賑わった。



11 水産試験場の松並木【住吉町 大正15（1926）年頃】

左の樺崎桟橋に大阪商船と宇和島運輸の船が仲良く停留中で、ボートを漕ぐ旧制宇和島中学の生徒の姿も見えている。沖合には演習航海中であろうか、軍艦が入港している。



12 樺崎桟橋【住吉町 昭和2（1927）年頃】

宇和島運輸の汽船が二隻桟橋に停泊している。当時は大阪、別府、宿毛航路があり、商業が栄え、中央の文化が直接宇和島に入ってきたのも、交通が航路であった関係からであった。

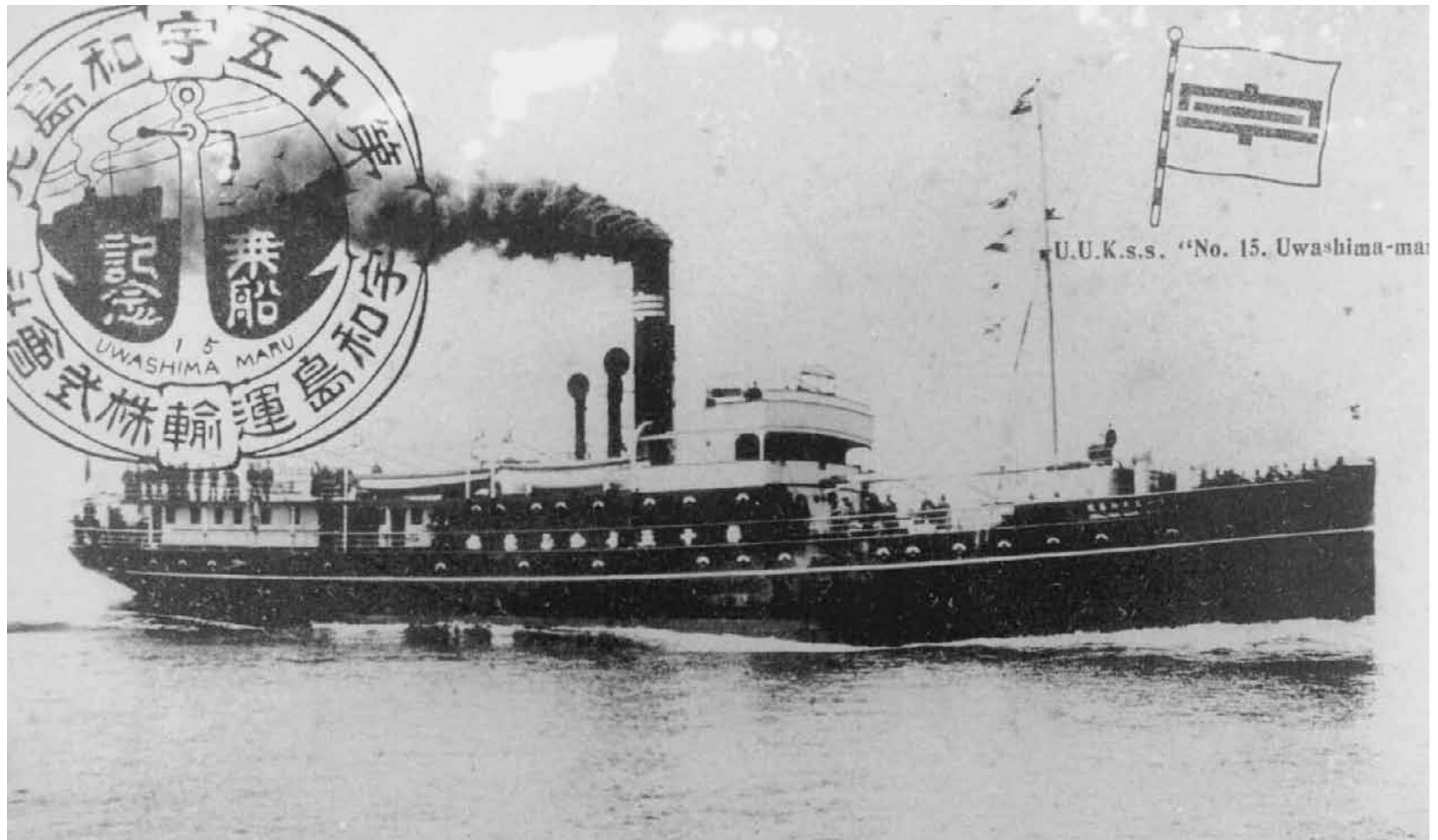


(行商店路並木)

島和宇豫伊  
水産試験場通り

### 13 水産試験場通り【住吉町 昭和2（1927）年頃】

愛媛県水産試験場は、大正6（1917）年8月に、製造場跡より樺崎に移された。この松並木の通りは旧制宇和島中学のボートレースの際観覧席にも使われ、船をつなぎとめる石柱が並んでいるのがわかる。右側の石垣と松は今では和霊公園に移設され、往時を偲ぶよすがとなっている。正面の三角屋根の二階建ては宇和島運輸の待合室である。



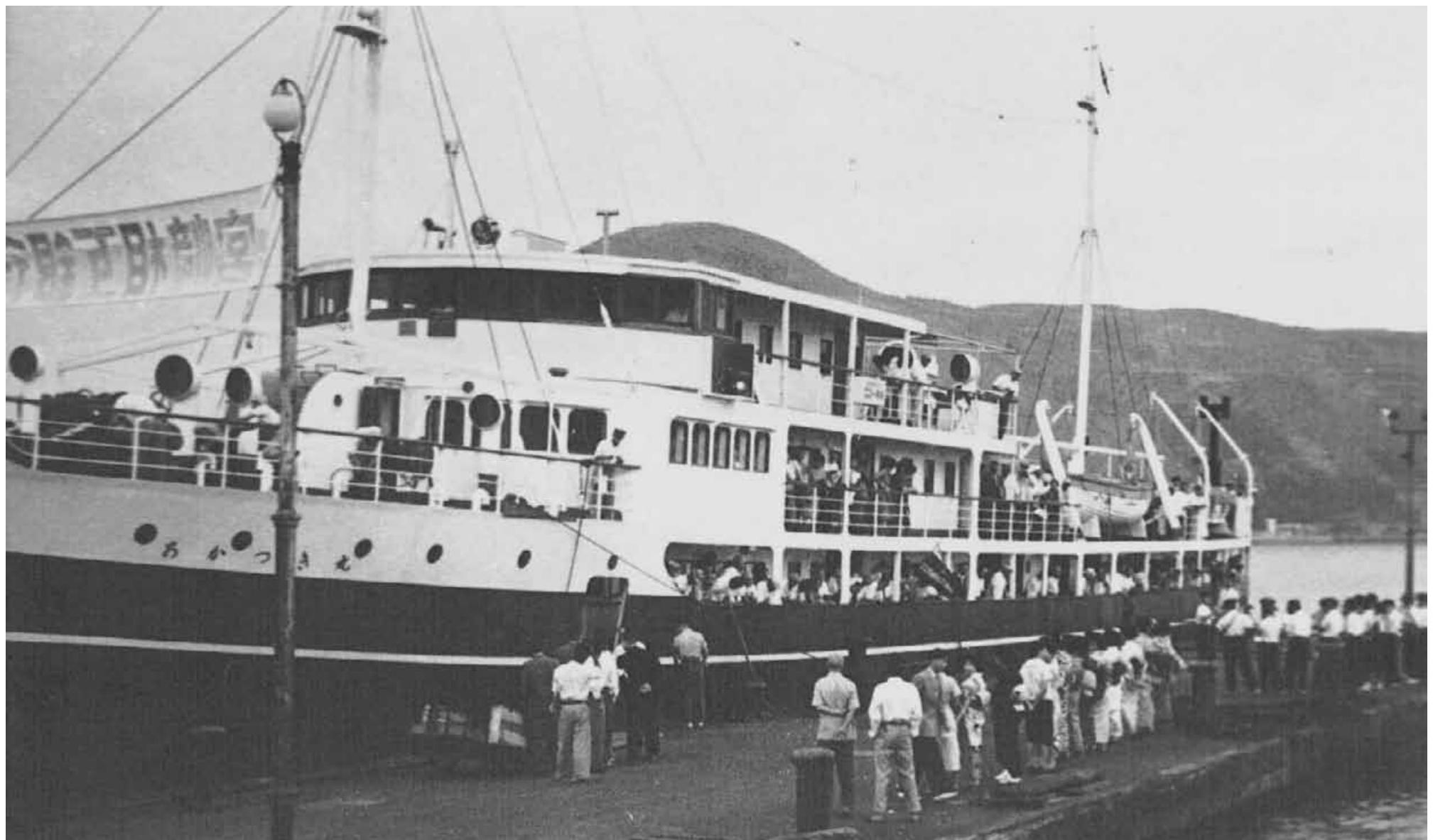
14 樺崎桟橋の第十五宇和島丸2【住吉町 昭和3（1928）年頃】

黒い煙突に「宇」の字の宇和島運輸の貨客船で、大正2（1913）年に新造された。宇和島－大阪間を、第十五宇和島丸と大阪商船の船が1日交替で走っていたが、昭和4（1929）年宇和島運輸の単独運航になった。



15 宇和島運輸株式会社2【新町 昭和4（1929）年頃】

偉容を誇る宇和島運輸（株）、その左隣に荷物を扱う共同組荷受所、海産物肥料の三栄社が続いている。中央の浮桟橋につながれているのは、内港と外港（樺崎）を結ぶ板島丸のようだ。当時このあたりは内港の浜通りと呼ばれていたが、現在の新橋商店街、笹岡薬局付近である。



16 あかつき丸【住吉町 昭和40（1965）年頃】

宇和島運輸の宇和島一別府航路の客船で、修学旅行や新婚旅行を見送る人たちの姿が見られる。このころは、結婚式が終わると当時の新婚旅行のメッカ宮崎などへ、宇和島から別府経由で出かけたハネムーナーが多く、テープで見送る光景は港の風物詩だった。



17 宇和島運輸の桟橋【住吉町 昭和45（1970）年頃】

左岸に宇和島運輸の船、右に機帆船が停留中である。九州・別府航路の宇和島運輸の客船は、「夕なぎ」「宇和島丸」「あかつき丸」と三隻あった。写真でわかるように、ここの浮き桟橋は、ブリッジでつながったダブルの桟橋であった。



18 宇和島港駅1【築地町 昭和54（1979）年10月】

宇和島港駅（宇和島運輸待合所）へは、国鉄（現・JR）宇和島駅前から海の方に延々と続く道をまっすぐ進むと辿り着いた。駅と港を結ぶ臨港鉄道の予定線が計画されていたための道路であったが、結局この鉄道は実現しなかった。宇和島運輸の宇和島一別府航路は当時1日1往復で、同運輸の別府航路は八幡浜発着便が5便、三崎便が4便であった。



19 宇和島港駅2【築地町 昭和54（1979）年10月】

港湾埋立てにともない移転間近の宇和島運輸の待合所で、閑散としてさびしい雰囲気である。正面には時刻表が見え、左上に広告の出ている加和登旅館や喜久屋旅館、青野胃腸病院も今は無い。跡地には新しい魚市場ができている。



20 宇和島運輸フェリー岸壁【住吉町 昭和60（1985）年4月】

宇和島・八幡浜・別府航路の「別府丸」が接岸している。平成12（2000）年10月31日、宇和島と別府を1日1往復で結んでいたフェリー航路は休止となり、明治以来115年続いた宇和島発着の九州航路は姿を消した。最後の別府への航海は「あかつき2」であった。



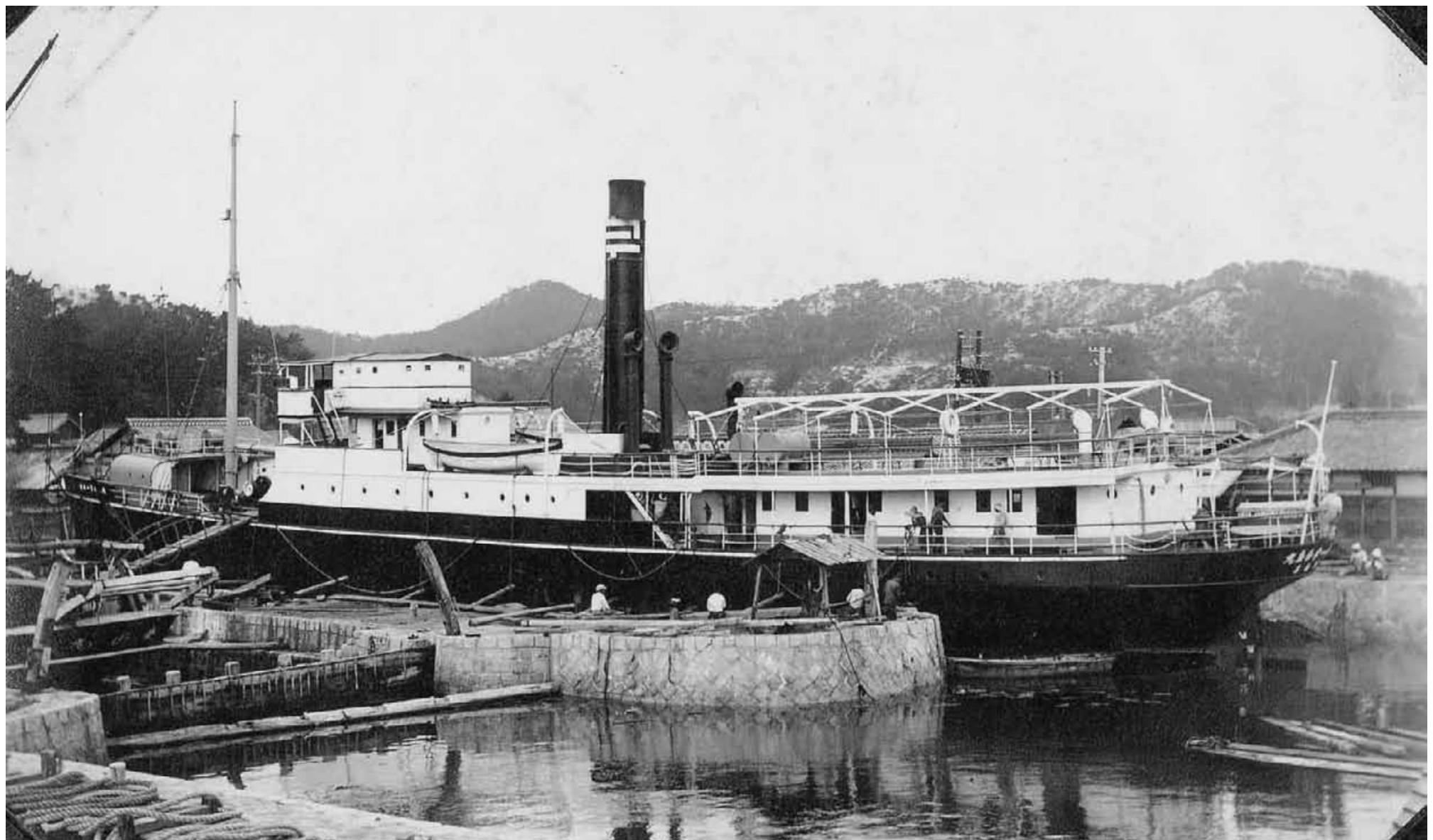
21 旧宇和島運輸待合所【住吉町 昭和60（1985）年頃】

オールドファンにはなつかしい旧宇和島運輸の事務所兼待合所が、大正以来の長年の風雨にも耐えこの頃まで残存していた。佐々木商工（株）の事務所として再活用された後取り壊された。現在の市立歴史資料館に隣接した場所である。



22 港の旅籠（はたご）【住吉町 昭和60（1985）年頃】

この地には、以前は九州や大阪航路の発着所があった関係から、旅籠（はたご・旅館）も数軒あったようだ。写真のこの旅館も近年解体され、市立歴史資料館の駐車場の一画になっている。



23 【昭和4年10月16日】  
No. 11 UWAJIMAMARU  
重量 \$ 750 入渠中  
総 \$ 499